

屋久島の「山らしさ」に関する意見聴取結果

①地域資源の特徴

○人の手が入った森で感じる「原生性」「原始性」

(インタビューにおける主な意見)

- ・屋久島の森のキーワードは「原生」であると思う。ありのままの姿を見せるにはやはり1日1,000人を超えるような場合には難しい。本来原生的な環境のはじっこに居るのが人であったはず。伝えたいものを伝えるには人は少なく、他の人とは一線を画している状況が望ましい。
- ・屋久島らしさはやはり原生性、原始性だと思う。ほぼ手つかずであり屋久島として独特である。神聖性も感じる。
- ・原始性、原生性ということであれば千年杉はまさにそのものだろう。
- ・人の手が入り、あれだけ切り株が見られる森を「原生」「太古」「原始」ということに違和感がある。
- ・自分としては、海、川、山と様々な魅力がある中で、とくに屋久島の森を理解して楽しんで欲しいが、特に森とともに生活があったということを伝えたい。
- ・屋久島の森で切り株が見られないのは、そもそも伐採に適した木がなかった山頂部近くくらいである。その意味では屋久島の森を「原始」と言うには難しいが、例えば花山歩道や蛇文杉よりさきの太忠岳ルートなど、江戸時代に人の手が入った森でも「原生」さを感じることはできる。その他、ルートはないが原生自然環境保全地域に指定されている周辺国割岳なども同様である。
- ・屋久島の森は切り株も多く、他の地域と比べて必ずしも特別だとは思わない。
- ・人がいたとしても原始性は感じられるのではないか。
- ・小杉谷周辺では江戸時代の伐採の跡が見られるなど、時間の経過が感じられる。
- ・山の中に人の気配があることも特徴。切り株やほこらなど。岳参りや里の生活など人が関わっていることが特徴。その意味では、原生性はあまり感じない。ただし、完全に手つかずではないが、人の手を経ずに自然に生えてきているという点は言えると思う。
- ・確にかつては人の手が入り伐採されていた森だが、今はそのことはあまり感じにくい。

○山岳部以外の「里のみどころ」もある多様性

(インタビューにおける主な意見)

- ・屋久島には山岳部以外のいわゆる里の観光地もある。島内全体の歩道も含めて考えてはどうか。

○水・うるおい・雨の豊かな環境

(インタビューにおける主な意見)

- ・屋久島らしさは登山道のどこでも水が飲める点だと思う。また、本州の山のように猿や熊に襲われることもない。その意味では安心できるという言い方もできるだろうか。
- ・屋久島は「水」のイメージ。コケや緑、うるおい、霧など。湿度が高い点。
- ・他の地域の山と異なり、屋久島は雨が降っても山に入ることが当たり前の島。

○人工物のない開放感のある展望

(インタビューにおける主な意見)

- ・展望が登り初めから開けるなど、「出し惜しみがない」というイメージもある。初めから楽しめる。
- ・いったん山の中に入ったら人工物が見えないという特徴があると思う。頂上に立ったときに人工物が見えない。昔の人も同じ風景を見ていたのだと感ずる。その点はある意味で原生性があると言えるのではないか。

○特徴的な地質がもたらす景観

(インタビューにおける主な意見)

- ・花崗岩の上を歩くと屋久島らしさを感じる。滑りにくいし、落石も発生しにくい。雰囲気はアメリカのヨセミテ国立公園と似ているかもしれない。

②利用の特徴

○かつては「山屋」の世界だが、現在は素人も上級者も訪れる

(インタビューにおける主な意見)

- ・屋久島はかつていわゆる山屋の世界で、ヒマラヤにアタックする人が最終調整に使うようなところだった。30年前は中高年の登山ツアーが中心で、共同装備をガイドと客が手分けして担ぎ上げるような中で、自然とお互いの連携がとれていた。
- ・縄文杉トレッキングということで宣伝され、今は登山の経験が全くない人が押し寄せている。ツアーにしてもその日に初めて顔を合わせる人ばかりである。
- ・利用者の質の低下という言葉は違う。質が低下したのではなくて、素人が来るのが屋久島で、その人達が自然を好きになって帰って行くのが屋久島。
- ・屋久島は環境学習を行う場であるべきである。山に関しては素人がきても良い場所であって欲しいし、そうあるべきだと思う。
- ・屋久島が山登りのデビューの場で、アウトドア好きになってもらいたい。実際に現状もそうになっているのではないか。
- ・「素人が」来るのではなく、「素人も」来るのが屋久島ではないか。必ずしも素人でなくても、一方で「山屋」でなくても楽しめる。幅が広いのが特徴だと思う。
- ・「原生」的な環境に「素人」が来ることについては歓迎したい。そのギャップを埋めるの

が我々ガイドの役割だろう。ただ、現在はガイドが客のレベルに合わせてしまっている現状がある。原生性をできるだけ客観的に学び、伝える作業が必要だろう。何が宝なのかを見極める必要がある。

○自然を畏れ、慈しみながら利用する

(インタビューにおける主な意見)

- 単に楽しみにくるだけでなく、山に対して畏れをいただくという部分もあってよい。かつて屋久島の山に入る際に、川を渡る時にはその都度山の自然や神に対して「ことわり」を入れたり、幕営する際には塩で清めてからテントを張ったりしたものだった。かつて山岳部は女人禁制だった時代もある。単なる「もののけ」の世界ではなく神々の山であった。
- 岳参りなど屋久島らしさを踏まえて発信していきたい。行政としてもそれは踏まえて欲しい。
- 自分の住む地域の森林を大切にするという気持ちが醸成されている事は、他の地域にない特徴だと思う。